

# 『おくすり手帳』を持参しましょう

薬剤部 増田 雅行

みなさん、自分が飲んでいる薬の名前と含まれている成分量や、どの様に飲んでいるのかを全て正しく伝えられますか？

平成28年度の厚生労働省報告によると、平均寿命は男性80.98歳、女性87.14歳といずれも80歳を超える高齢化社会を迎えています。高齢になると何かしらの病気にかかる割合が高くなり、複数の病気にかかる人もいます。

複数の病気にかかるとき、一つの医療機関で全てを診てもらうことは難しく、それぞれの疾患を専門とする複数の病院を受診することになります。病院ごとに薬物治療がなされるため、同じような効果の薬の投与（重複投与）されたり、飲み合わせの悪い薬が投与され、効果が強くなったり副作用が出たり、効果が弱くなり病気の治りが悪くなったりする（相互作用）危険性が高くなりました。そこで「医薬分業」が行なわれています。

「医薬分業」は、医師と薬剤師が、それぞれ独立した専門的な立場から、患者さんにより安全で効果的な医療を提供することを目的としています。自分のかかりつけの薬局で全ての病院で処方されたお薬を調剤してもらうことで、重複投与や相互作用を回避できると考えられました。しかし、実際は病院の中で薬をもらったり、利便性などの理由で病院の近くの薬局でお薬をもらったりすることが多く、十分なメリットが得られなくなりました。そこで考案されたのが「おくすり手帳」です。

「おくすり手帳」には、服用している薬にかかる記録だけでなくアレルギー・副作用などの情報も記載します。医師・歯科医師・薬剤師があなたの服用中の薬を確認できるので、重複投与や相互作用を避けられます。また、手術や出血を伴うような検査を検討する際、血液をサラサラにする効果のある薬の服用を事前に中止することで、手術などを安全に行うことができます。アレルギーについては、体にあわない薬の名前や症状を正しく記入しておけば、同じ成分の薬の再投与を避けられ再発予防に繋がります。旅行などの際に携帯していただくと、旅先での急病やケガでもいつも服用している薬やアレルギーのある薬がわかるので安心して受診できます。

「おくすり手帳」は、みなさまの健康を守る大切な情報源なのです。是非、病院・薬局に行く時や、市販薬を購入する時には、毎回「おくすり手帳」を持参し提示してください。

## 外来受診のご案内

- 開院時間 8:10
- 受付時間 初診 8:30~11:00 再診 8:30~11:00  
※一部診療科では午後の受付となる場合があります
- 休診日 日曜日・祝日・第3土曜／創立記念日(6月10日)  
年末年始(12月29日~1月3日)
- 代表電話番号 043-462-8811  
予約変更専用 043-462-0489(平日14時~16時)
- 健康保険証(原本)、その他の公費負担受給者証(原本)を必ず持参下さい。
- 各科外来担当医はホームページ  
<http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp> をご覧ください。

## 編集後記

明けましておめでとうございます。私は、寒さに弱いので冬は苦手なのですが、日本は四季を体感できる素晴らしい環境であり四季折々の自然が織りなす表情は感銘を隠しえないものと考えます。枕草子の『春はあけぼの』の一説にも冬はつとめて(早朝)、雪の降りたるは言ふべきにもあらず、霜のいと白きも(雪が降ったあとはいうまでもなく、霜が白いような朝も)と冬は朝が良いようです。とても寒くて大変ですが、早朝の朝の景色も観察してみることも趣き深いと思います。まだ寒さも厳しい中皆さんにおかれましては風邪などを引かぬようお体をご自愛いただければと存じます。  
(内科 助教 館野 冬樹)



薬剤部 増田 雅行



# SAKURAdayori

東邦大学医療センター  
佐倉病院の基本理念

- 質の高い医療を安全に提供する病院
- 地域に貢献する病院
- 人間愛を共有する病院
- 楽しく明るくチャレンジする病院
- 良き医療人を育成する病院

患者の権利

- 質の高い公正な医療が受けられます
- 個人の尊厳が守られます
- 個人のプライバシーが保障されます
- 必要な医療情報の説明が受けられます
- セカンドオピニオンが保障されています
- 医療行為について自己選択ができます



病院長 長尾 建樹

## 年頭にあたり

あけましておめでとうございます。皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げ、旧年に賜りましたご厚情に深く感謝いたします。教職員一同、「患者さんのために」という揺るぎない基本姿勢を貫き、より安全で質の高い医療を提供できますよう心を新たにして、真摯な姿勢で医療に取り組んで参りますので本年も何卒よろしくお願ひいたします。また、昨年発生した西日本を中心とした集中豪雨による被災者の方々には衷心よりお見舞い申し上げます。

毎年のように発生している自然災害に対して、当院では地域災害拠点病院の指定を受けて以降、人材を中心とした拡充を進めており、引き続きDMATチームを中心として災害医療に対する教職員の意識を高めながら整備を継続してまいります。

迅速かつ高度な脳卒中診療が行える脳卒中ケアユニット(SCU)を昨年10月に開設しました。いつでも脳卒中専門家による診療が受けられる態勢を整え、皆様から信頼して頂ける高度な救急診療を目指してまいります。

地域医療支援病院として地域連携を強化するために、昨年1月から、かかりつけ医を持つことを啓発するパンフレットを院内配置し地元の診療所への逆紹介促進や患者さんの理解を深めて頂く努力を続けてまいりました。日常の連携において顔の見える関係を築きながら、多職種

連携をさらに深化させていくことが、患者さんにとって最善の医療を最適な場所で適切な時期に受けることを可能にし、地域で完結できる医療体制作りの推進力になると考え今後もより一層注力してまいります。これまで同様、医療連携・患者支援センターの窓口であるコンシェルジュでは紹介に関することだけでなく、広く当院に対するご要望、ご叱責に対して迅速に対応できる体制を整えておりますので、遠慮なくご連絡いただき積極的にご活用ください。

診療報酬改定や消費増税など依然厳しい医療情勢が予測されますが、患者さんに満足して頂ける医療を続けられれば自ずと診療実績は上がっていくと確信しています。そのためには多職種協働による医療連携がキーワードであり、その推進は医療サービスの質の向上だけでなく地域医療にあっても必要欠くべからずものと考えます。この地域に暮らして本当に良かった、と思って頂ける医療の提供を目指して地域の医療関係者と一丸となれるよう当院は努力を続けてまいります。関係各位おかれましては、更なるご支援・ご理解を是非ともお願い申し上げる次第です。最後になりましたが、本年が皆様にとりまして充実した実り多い年になるよう心から祈念して年頭の挨拶とさせていただきます。



## 公開講座「冬の感染症」



感染対策室 長島 誠



ICTメンバー

医療関連感染とは医療に関連して発生する様々な感染症のことといいます。『院内感染』という言葉が広く知られていますが、医療関連感染は院内感染のほか、在宅医療なども含む医療全般の感染症のことです。

当院では、医療関連感染を防ぐために感染対策室が設置されており、感染防止に関する様々な検討、分析、指導などを行っています。感染対策室のメンバーは、感染対策チーム (Infection Control Team; ICT)として活動しています。医師(ICD)、看護師(ICN)、薬剤師(BCPIC)、臨床検査技師(ICMT)、および事務員など多職種で構成され、様々な視点から対応しています。

病院で問題となる感染症はたくさんありますが、冬になって問題となる代表的な感染症といえばインフルエンザです。インフルエンザ予防の基本は手洗いとマスクの着用です。マスクを着用していても鼻が出ていては効果がありません。なお、インフルエンザはワクチン接種も重要です。ワクチン接種によりインフルエンザに罹患にくくなり、また罹患しても重症化を防ぐことができます。

一般的にインフルエンザのウイルスは環境表面での生存期間は2~8時間といわれています。手指を介して接触感染をすることも多いため、手洗いは極めて重要です。外出から帰った際や調理や食事の前、トイレの後などには、しっかりと手洗いをしましょう。

医療関連感染を防止するためには、病院の職員だけではなく、患者の皆さん、病院を訪問される皆さんとの理解・協力も必要です。日頃からの手洗い、咳やくしゃみが出るときのマスク着用、風邪症状などがある方のお見舞いや訪問の自粛など、ご協力を願っています。

去る12月9日に行った公開講座では、「冬の感染症」として代表的なインフルエンザを取りあげました。症状等に関する基礎的情報、診断検査の方法、ワクチンや治療薬、罹患しないための予防対策等につきまして、当院の医師、検査技師、薬剤師、看護師が、わかりやすく講演を行いました。多数の熱心な参加者にお集まりいただき、講演後も質問が多く寄せられ、とても有意義な公開講座でした。ありがとうございました。



12月9日公開講座 会場の様子

### 2018年 公開講座のお知らせ（入場無料・申込不要・200席）

開催予定日	講演予定テーマ	担当
1月27日(土) 13:00~15:00	耳と鼻を手術でなおす	耳鼻咽喉科 鈴木 光也 他
2月10日(土) 13:00~15:00	妊娠と出産について	産婦人科・看護部 竹下 直樹 他
3月24日(土) 13:00~15:00	〈地域で考えるケアと治療〉 歩行障害	神経内科・メンタルヘルスクリニック・ 脳神経外科・リハビリテーション部・ ソーシャルワーカー・看護部 他
4月28日(土) 13:00~15:00	前立腺がん	泌尿器科 鈴木 啓悦 他
5月12日(土) 13:00~15:00	調整中	糖尿病・内分泌・代謝センター

#### ご参加お待ちしております

ほぼ毎月、身近な疾患や症状をテーマにした公開講座を企画しております。多くの市民・医療関係者の皆様にご参加いただき、病気の予防や早期発見、地域医療の発展に役立てていただければと存じます。

当院東棟7階講堂で開催致しますが、昨年9月から開始時

間が13時に変更となっています。講演テーマなどの詳細につきましては、院内掲示およびホームページなどでご案内致します。

お問い合わせや講演テーマのご要望がございましたら、総務課にご連絡下さい。

## 脳卒中ケアユニット SCU 開設にあたって



神経内科 横原 隆次

院し、医療連携の推進にも取り組んでおります。これらにより、2/3の患者さんが独歩での自宅復帰を獲得しています。

このような背景のもと、脳卒中を発症して間もない、病態が不安定な急性期の患者さんに高度な専門的治療を行う病棟として、脳卒中ケアユニット(Stroke Care Unit: SCU)を2017年10月、7階西病棟に開設し、さらに診療の強化を図ることと致しました。6床からのスタートですが、脳神経外科・神経内科が協力して、365日・24時間、救急車を受け入れ、脳卒中の急性期医療を切れ目なく行うものです。SCUは、医師はもとより、専従の看護師(脳卒中リハビリテーション看護認定看護師と摂食・嚥下障害看護認定看護師を配置)、理学療法士、臨床工学技士、病棟薬剤師、医療ソーシャルワーカーがタッグを組み、SCU入室早期から、急性期の治療に加えてリハビリテーション・退院後の慢性期治療・在宅医療に向けて計画的に介入し、脳卒中死亡率および再発率の低下、在院期間の短縮、自宅退院率の増加、長期的な日常生活動作(ADL)と生活の質(QOL)の改善を図ることを目的としております。また、SCUの役割を充分に發揮して目的を達するため、初期対応の救急外来・病棟や手術室、血管検査治療室、ICU/CCUなどの他部署と緊密に連携をしています。さらに、術前後の抗凝固薬の適切な使用、院内・院外への脳卒中予防の啓発・教育活動も視野に入れております。

今後も、東邦大学医療センター佐倉病院は地域の皆様の疾病予防・治療に役に立ちますよう尽力して参ります。診療においても皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



SCU病棟写真



SCUスタッフ集合写真